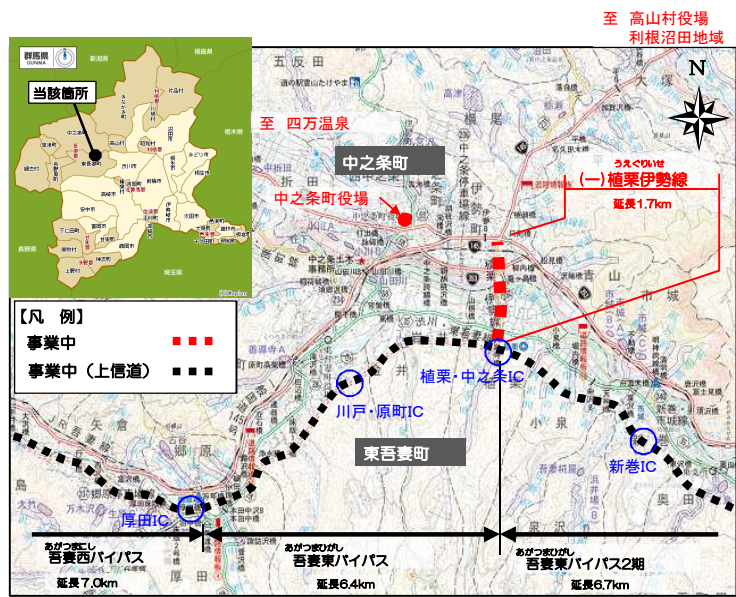


<b>第4号議案</b>	<b>道路改築事業</b>	うえぐりいせ ひがしあがつままち なかのじょうまち 一般県道 植栗伊勢線 東吾妻町～中之条町	着工年度 平成25年度
			評価理由 事業費の増額

## 1. 事業の目的

- 本事業は、四万温泉を含む中之条町・高山村地域と上信自動車道の植栗・中之条ICを結ぶアクセス道路を整備することで、物流の効率化や観光誘客を図ることを目的とした事業である。
- 現状の植栗伊勢線は、幅員狭小、一部急勾配箇所があるなど、ICへのアクセス道路及び緊急輸送道路として課題を抱えていることから、安全かつ円滑な通行を確保するため、改良するものである。



幅員狭小、歩道未整備状況



現道の状況(急勾配)

## 2. 事業概要と進捗状況

### 事業概要

事業場所	あがつまぐんひがしあがつままち うえぐり あがつまぐん なかのじょうまち いせまち 吾妻郡東吾妻町植栗～吾妻郡中之条町伊勢町	
区分	前回評価時(H29)	今回
全体事業費	2,650百万円	4,500百万円
全体事業費増減の理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 縦断勾配の見直しによる橋長変更(延伸)に伴う増額</li> <li>• 機能補償道路の追加に伴う増額</li> <li>• 軟弱地盤対策の追加に伴う増額</li> <li>• 橋梁基礎形式の変更に伴う増額</li> </ul>
事業期間	H25～R6	H25～R8
事業内容	道路延長 1,700m 道路幅員 10.5～13.0m	道路延長 1,700m 道路幅員 10.5m～13.0m

### 事業経緯

年度	主な経緯
H25	事業着手
H26～28	測量調査・設計 地元調整
H29	用地買収着手
R1	工事着手

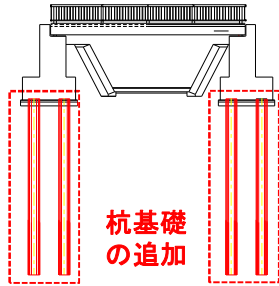
### 進捗状況

	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	4,500百万円	211百万円 (4.7%)	1,352百万円 (30.0%)
用地買収	25,658m <sup>2</sup>	0.0m <sup>2</sup> (0%)	21,023m <sup>2</sup> (82%)
計画延長	1,700m	0m (0%)	0m (0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

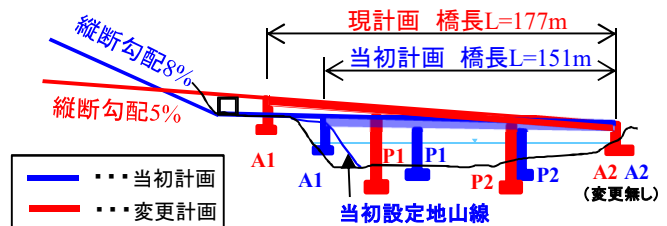
### 増額理由

当初、近傍の地質調査の結果に基づき、渋川吾妻線橋梁の基礎形状を直接基礎として計画していたが、橋台施工箇所にて地質調査を行った結果、想定より支持層が深く、基礎形状を杭基礎へ変更する必要が生じた。このため、橋台基礎を直接基礎から杭基礎への変更に必要な+1.0億円の工事費の増額が生じた。

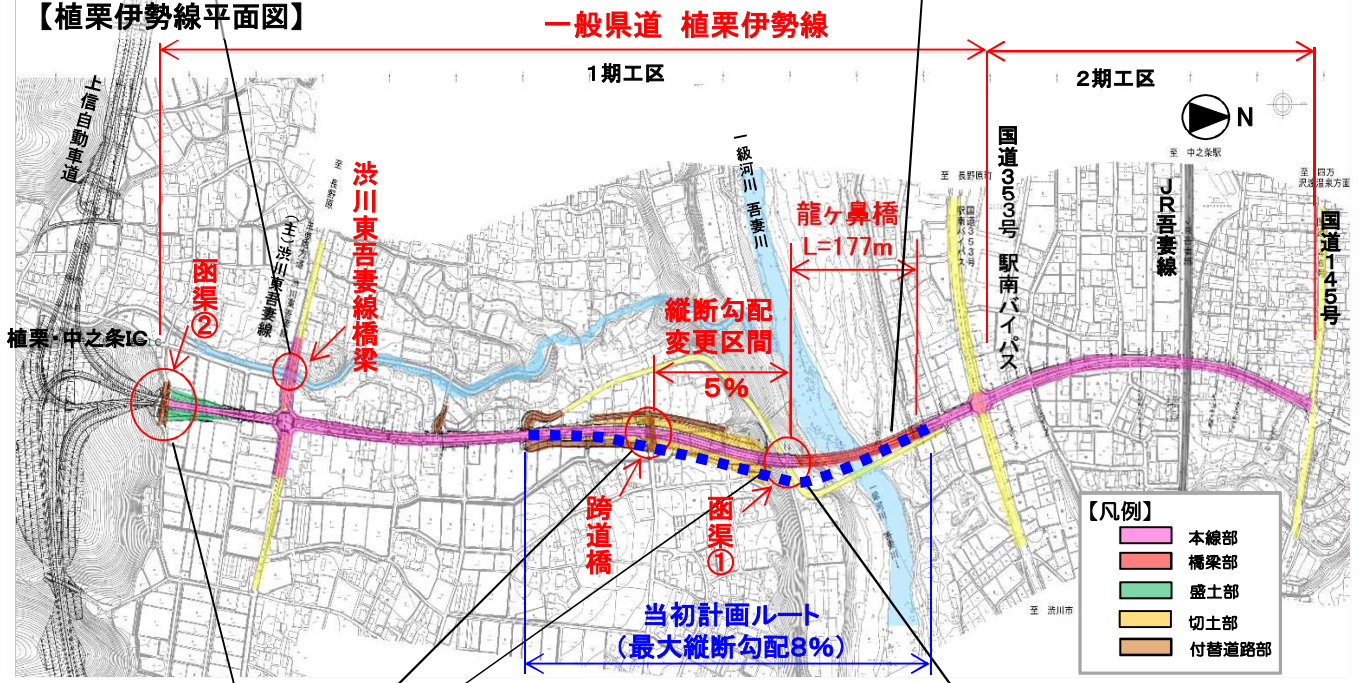


### 増額理由

当初、本線の縦断勾配について、道路構造令の特例値である8%で計画していたが、関係2町および地域住民との協議や冬季における現道の路面凍結状況等を調査した結果、冬季における車両通行の安全を確保するため、龍ヶ鼻橋前後のルート変更を行い、縦断勾配を規定値である5%に見直した。このため、龍ヶ鼻橋の橋長変更(延伸)に要する+6.5億円の工事の増額が生じた。



### 【植栗伊勢線平面図】



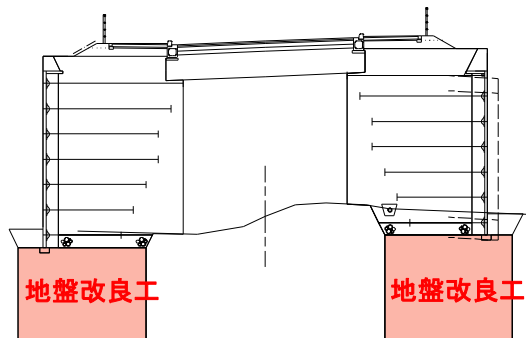
### 増額理由

現状の道路利用状況についての調査並びに東吾妻町および地域住民との協議の結果、地域の分断を防ぐため、本線の横断に必要な函渠や跨道橋の追加に要する+4.5億円の工事費の増額が生じた。



### 増額理由

本線縦断勾配の見直しに伴い、龍ヶ鼻橋の橋詰部が高盛土構造となることから、支持地盤の地質調査を行ったところ、支持力が不足することが判明した。そのため、軟弱地盤対策として地盤改良工(中層混合処理)を追加することにより+1.5億円の工事費の増額が生じた。



### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- 吾妻地域には、高速道路網がないため、速達性が乏しいことが物流の効率化や観光誘客の足かせとなっており、現在もその状況は改善されていない。このような状況であるため、上信自動車道へのアクセス道路として、本線を整備する必要性に変化はない。
- また、上信自動車道の開通に伴う交通量増加が見込まれるが、現道は幅員狭小のうえ、急勾配箇所があり、歩道が未整備であることなど、ICアクセス道路及び緊急輸送道路として、課題を抱えていることから、安全で円滑な通行を確保するための本路線を整備する必要性は高い。



現道の状況

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- 現道の植栗伊勢線は、上信自動車道の植栗・中之条ICと中之条町の中心市街地を直結する路線であり、ICへのアクセス道路として合理的なルートとなっているため、現道拡幅を主として、急勾配箇所や線形不良箇所等の課題を解消する本計画の有効性は高く、適切である。

#### 費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析 マニュアル 国土交通省 道路局、 都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析 マニュアル 国土交通省 道路局、都市局 平成30年2月			
基準年		平成29年		令和2年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	2,179,000	93.6%	3,912,000	96.3%	事業費の増加による	
	維持管理費	149,000	6.4%	151,000	3.7%		
費用合計(C)		2,328,000		4,063,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	3,793,000	79.7%	4,353,000	86.6%	上信自動車道長野原嬭恋バイパス事業化に伴う交通量の増加による	
	交通事故減少便益	171,000	3.6%	199,000	4.0%	費用便益分析マニュアルの改訂による係数減少	
	走行経費減少便益	797,000	16.7%	471,000	9.4%	費用便益分析マニュアルの改訂による原単位減少	
便益合計(B)		4,761,000		5,023,000			
費用対効果分析(B/C)		2.05		1.24			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画 不測の事態により長期化】

- ・ 本事業は地権者数が60名以上と多く、地元調整に長期間を要するため、元々が長期計画となっている。
- ・ 埋蔵文化財の試掘調査の結果、調査面積が増加となり、約1年の期間を要した。
- ・ 本線の縦断勾配や機能補償道路の見直しについて、地元自治体や地域住民との合意形成までに約1年の期間を要した。
- ・ 以上の影響により、全体的な工程が遅延しているため、事業完了は令和6年度から令和8年度となる見込みである。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・ 本事業は、四万温泉を含む中之条町・高山村地域と上信自動車道の植栗・中之条ICを結ぶアクセス道路として、物流の効率化や観光誘客を図るとともに、緊急輸送道路として、災害時の救命救助や、被災地への物資輸送を確保することなどを目的とした道路改良事業である。
- ・ 上信自動車道による交通量増加が見込まれるが、現道は幅員狭小のうえ、急勾配箇所があり、歩道が未整備であることなど、課題を抱えており、安全で円滑な通行を確保するためのアクセス道路を整備する必要性は高い。
- ・ 一方で、埋蔵文化財調査の増加や地元自治体や地域住民との合意形成に期間を要しており、完成時期が2年遅れ令和8年度となる見込みであるが、1期工区を優先的に整備を図るなど、早期の事業効果発現も考慮しながら事業を進捗させている。
- ・ 以上のことから、本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

## 7. 市町村意見

市町村	再評価における意見
中之条町	・ 本路線は、中之条町・高山村地域と植栗・中之条ICを結ぶ重要なアクセス道路であり、早期の整備に向けて事業を進めていただきたい。
東吾妻町	・ 本路線は、上信自動車道の植栗・中之条ICと中之条町の中心市街地を結ぶ重要な路線であり、急勾配箇所や線形不良箇所等の課題解消や防災上重要な道路であるため、早期の整備をお願いしたい。

# 全体事業費の変更に伴う説明資料

R2公表事業再評価  
一般県道 植栗伊勢線

## 1. 計画の概要及び事業費の変更

事業費の構成比較

【単位：億円】

費目	当初計画	変更計画	増減額	主な理由
本工事費	14.6	28.1	+13.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦断勾配の見直しによる橋長変更(延伸)に伴う増額</li> <li>機能補償道路の追加に伴う増額</li> <li>軟弱地盤対策の追加に伴う増額</li> <li>橋梁基礎形式の変更に伴う増額</li> </ul>
用地補償費	6.4	9.7	+3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦断勾配の見直しによる用地買収面積の増加に伴う増額</li> </ul>
測量試験費	5.5	7.2	+1.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財調査面積の増加に伴う増額</li> </ul>
合計	26.5	45.0	+18.5	

## 2. 当初計画ならびに全体事業費を変更する理由

### (1) 本工事費 [+13.5億円]

#### ① 本線縦断勾配の見直しによる橋長の変更 +6.5億円

- 当初、本線の縦断勾配について、道路構造令の特例値である8%で計画していたが、関係2町および地域住民との協議や冬季における現道の路面凍結状況等を調査した結果、冬季における車両通行の安全を確保するため、龍ヶ鼻橋前後のルート変更を行い、縦断勾配を規定値である5%に見直した。これにより、龍ヶ鼻橋の橋長変更(延伸)が必要になったことにより工事費が増額となる。(龍ヶ鼻橋の橋長 151m→171m : +6.5億円)

#### ② 機能補償道路の見直し +4.5億円

- 現状の道路利用状況の調査並びに東吾妻町および地域住民との協議の結果、地域の分断を防ぐため、本線の横断に必要となる函渠や跨道橋の追加が生じたことにより工事費が増額となる。(函渠2基および跨道橋1橋追加 : +4.5億円)

#### ③ 地質調査の結果による軟弱地盤対策の追加 +1.5億円

- 本線縦断勾配の見直しに伴い、龍ヶ鼻橋の橋詰部が高盛土構造となることから、支持地盤の地質調査を行ったところ、支持力が不足することが判明した。そのため、軟弱地盤対策として地盤改良工(中層混合処理)を追加する必要が生じたことにより工事費が増額となる。(4,500m<sup>3</sup>追加 +1.5億円)

#### ④ 地質調査の結果による橋梁基礎形式の変更 +1.0億円

- 当初、近傍の地質調査の結果に基づき、渋川東吾妻線橋梁の基礎形状を直接基礎として計画していたが、橋台施工箇所にて地質調査を行った結果、想定より支持層が深く、基礎形状を杭基礎へ変更する必要が生じたことにより工事費が増額となる。(橋台基礎 直接基礎2基→杭基礎2基 : +1.0億円)

### (2) 用地補償費 [+3.3億円]

- 本線の縦断勾配の見直しにより、龍ヶ鼻橋前後のルートを見直したため、必要な用地面積が増加したことから用地補償費が増額となる。(用地買収面積 2.4万m<sup>2</sup>→2.55万m<sup>2</sup> 補償物件12件→17件 +3.3億円)

### (3) 測量試験費 [+1.7億円]

- 埋蔵文化財の試掘調査の結果、埋蔵文化財調査面積が増加したことから測量試験費が増額となる。(文化財調査面積 1万m<sup>2</sup> → 2.4万m<sup>2</sup> : +1.7億円)

## 3. 計画変更の妥当性

### ① 本線縦断勾配見直しによる橋長の変更

- 縦断勾配の見直しに伴い、冬季における車両通行の安全が確保されるため、計画の見直しは適切である。

### ② 機能補償道路の見直し

- 本線を横断するための函渠や跨道橋がないと、これまで住民の往来のあった箇所でも本線により往来が遮られることになるなど、地域が分断してしまうため、道路利用状況を把握し、これまでの往来に影響を与えないよう機能補償として本線を横断するための函渠や側道を整備することは適切である。

### ③ 地質調査の結果による軟弱地盤対策の追加

- 本地域は冬季において路面が凍結しやすく縦断勾配を緩和する必要性は高く、本線縦断勾配の見直しのためのルート案の比較や、軟弱地盤対策に関する工法の比較検討を行った結果、通行車両の安全性やコスト面等に関する優位性が高い本工法を採用しており、対策の追加は適切である。

### ④ 地質調査の結果による橋梁基礎形式の変更

- 本橋梁は直接基礎では構造の安定が確保できないことから、橋梁基礎工に関する複数の工法の比較検討を行った結果、施工性やコスト面等に関する優位性が高い、場所打ち杭基礎工法を採用しており、対策の追加は適切である。

## 4. 事業費の縮減に向けた取り組み

### ① 建設発生土処分費の縮減

- 建設発生土を隣接する上信自動車道の盛土区間に流用することで、コストの縮減を図る。(55,000m<sup>3</sup> ▲0.5億円)

<全体計画平面図>

